



参加の力で 佐久の未来を創ろう！

～3ヵ年の振り返りと次の5ヵ年の計画～

佐久市市民活動サポートセンター
(企画運営：特定非営利活動法人 長野県NPOセンター)

2022年4月1日

もくじ

1. センター運営の考え方
2. これまでの主な実績
3. 今後の事業計画
4. 長期的な事業展開に関する考え方



1-1. 佐久市市民活動サポートセンターのご紹介

佐久市市民活動サポートセンター (通称：さくさぽ) です！

佐久市からの委託を受けて、
特定非営利活動法人
長野県NPOセンターが
企画運営しています。



1-2. センター運営の考え方 ビジョンミッション

【ビジョン】（目指すこと）

出会って、学んで、コラボして、
参加の力で佐久の未来を創ろう！



1-2. センター運営の考え方

ビジョンミッション

【ミッション】

（ビジョン実現に向けたセンターの役割）

「支える」「つなぐ」「広める」3つの役割を通して、市民活動団体やNPO、地域のために活動する市民のみなさんを応援します。また、市民活動団体同士や、行政・学校・企業など地域の多様な主体とのつながりをつくり、それぞれの力を合わせてより魅力的な地域を創るための協働の芽を育てていきます。



1-3. センター運営の考え方 協働ってなに？

【協働ってなに？】



「協働」とは、**さまざまな主体**が
それぞれの力を持ち寄り、
共通の目標に向けて
協力して活動することです。

【かんたんな言葉にすると？】

「**一緒に取り組むこと**」



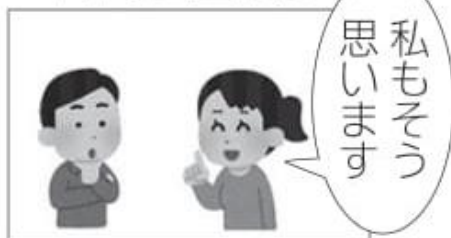
1-3. センター運営の考え方 協働ってなに？

【協働のイメージ】

①課題や目標が
できませんでした



②同じ思いを持つ
仲間と出会う



③お互いのできる
ことを持ち寄る



④仲間が強みを生かし
連携・協力



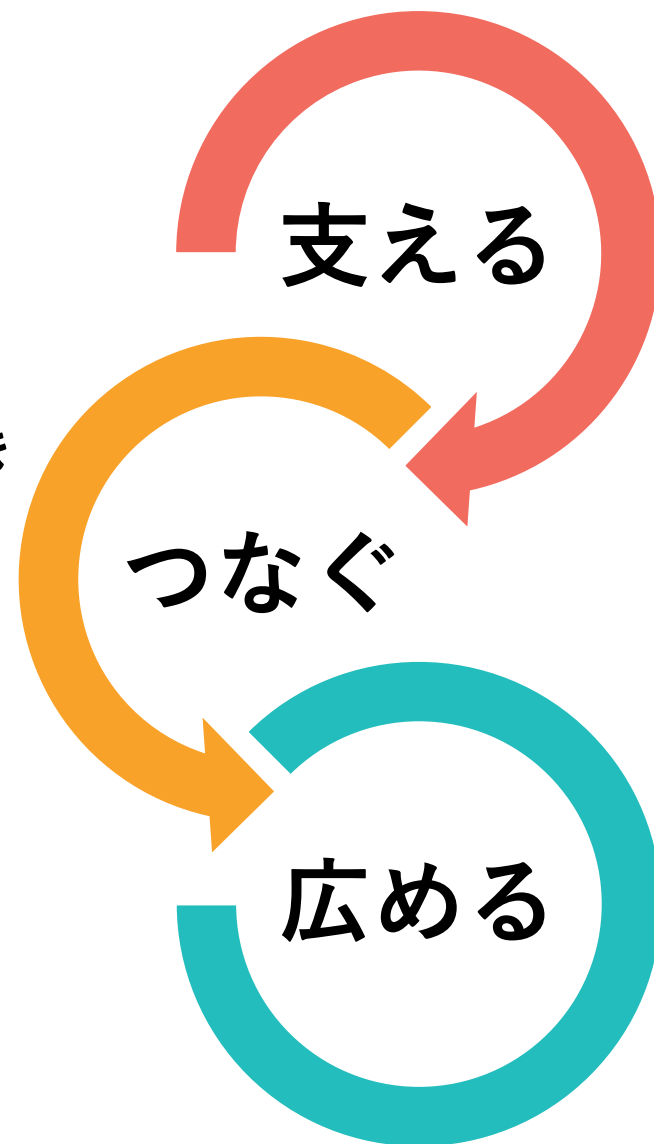
佐久市では、
「協働のまちづくり計画」
を策定しています。
さくさぽは、「協働のまち
づくり」を進める拠点です。

佐久市協働のまちづくりに
ついて、詳しくは市の
ホームページをご覧ください



1-4. ビジョン・ミッション実現のために 重要な取り組み

特に力を入れていく重点事業：
市民や団体、行政など、
様々な主体の協働への理解を深め、
「一緒に取り組む」協働が
生まれやすい環境づくりをしていきます



1-4. ビジョン・ミッション実現のために 重要な取り組み



支える

市民活動団体等の成長支援

あらゆる分野の市民活動団体が協働の担い手として活躍できるよう、**組織力、事業力、情報発信力、資金力等、団体の成長につながる講座の企画運営**を行います。

また**各団体の発展段階やニーズに応じた、きめ細やかな相談対応**を行います。

1-4. ビジョン・ミッション実現のために 重要な取り組み



つなぐ

協働につながる交流の場づくり と協働コーディネート

市民活動団体、地縁団体、企業、一般市民、市職員等の相互理解を促す場づくりを行います。また、社会・地域課題の解決や新たな価値創出に向けた協働のコーディネートを行います。

1-4. ビジョン・ミッション実現のために 重要な取り組み

つなぐ

協働コーディネートにおいて大事なこと：

- 協働は目的ではなく、手段！
共通の目的を実現するために、一緒に取り組むことが大事です。
- 一緒に取り組む組織同士は、対等なパートナーです（上下関係ではありません）。
- それぞれの役割分担を確認します。
- 関係する人・組織の主体性を尊重します。

さくさぽでは、一緒に取り組む組織のコミュニケーションや事業がスムーズに進むように、サポートします



1-4.ビジョン・ミッション実現のために 重要な取り組み

広める

協働・市民活動・センターの 役割についての情報発信

- 機関紙、ホームページ、SNSといった多様な媒体を使って、市民活動に興味や関心のある市民に今後の活動への参加を促す情報を伝えます。
- 佐久地域の協働を実感できる身近な事例について幅広く発信します。
- 親しみやすい通称とロゴマークの市民への浸透とともに、センターの役割についての認知度向上を目指します。



2. これまでの主な実績

支える

市民活動団体等の成長支援



表1-1-a 「支える」：市民活動団体等の成長支援 講座等の開催実績

	内容	2019年度		2020年度		2021年度	
		回数	参加人数	回数	参加人数	回数	参加人数
1	市民活動・NPO 入門講座	4回	10人	2回	31人	2回	30人
2	情報発信や広報 に関する講座	3回	21人	1回	10人	2回	22人
3	活動資金の調達 に関する講座	3回	4人	0回 (個別相談)		1回	11人
4	団体の会計処理、 労務リスク管理 等に関する講座	1回	3人	0回 (個別相談)		0回 (個別相談)	
5	組織運営に関す る講座	1回	13人	2回	10人	1回	18人
6	イベント・講座 等の企画開発に 関する講座	(台風によ り中止)		2回	30人	1回	31人
	合計	12回	51人	7回	81人	7回	112人

※オンライン開催を含む

参加人数は増加傾向



支える

市民活動団体等の成長支援 相談件数

年 度	件数 (合計)	(窓口)	(電話等)
2019年度	84件	(56件)	(28件)
2020年度	122件	(93件)	(29件)
2021年度	213件	(149件)	(64件)

相談件数は増加傾向
→認知度があがってきていると
考えられます

支える

市民活動団体等の成長支援 主な相談対応例（抜粋）

（※年・月は、相談対応時期）

1 SAKUおむすびの会
（発達障がいの子を持つ親の会）

・ NPO法人設立相談
2019/12～

NPO法人設立手続きの
案内や、運営ノウハウ
についての情報提供



法人化に向
け準備中



2 反貧困ネットワーク佐
久（生活困窮者への食事
提供・相談支援）

・ コロナ禍福祉活動応援
助成金（赤い羽根）
2020/5～7



助成金の情報提供
申請書の書き方
について助言



・ 助成金が採択された。
・ 多くの生活困窮者へ
の支援が継続できた。
・ 団体の信頼度が向上
した。

支える

市民活動団体等の成長支援 主な相談対応例（抜粋）

3 ゆるりうんどう会
（多世代交流団体）

まちづくり活動支援金

2020/9～2021/1

- ・助成金の情報提供
- ・申請書の書き方助言
- ・組織運営の相談対応



- ・支援金が採択された。
- ・運動会を通し、笑いのある多世代交流が実現。
- ・事業活動に広がりがあった。



4 大人とこどもの
青空カフェ

（子育て支援団体）

まちづくり活動支援金

2021/1～2



- ・申請書の書き方助言
- ・会則づくり等、組織運営の相談対応

- ・支援金が採択された。
- ・事業活動に広がりがあった。

支える

市民活動団体等の成長支援 主な相談対応例（抜粋）



5 ぼろ織りを伝えて
いこう岩村田宿の会
（伝統文化団体）
元気づくり支援金
まちづくり活動支援金
2021/1～2

- ・ 機織り機を置いてくれる学校を探すコーディネート
- ・ 報告書の書き方についての助言

- ・ 活動が広がった
- ・ 団体の信頼度が向上した



6 ゆるい親父の会
（シニア男性の居場所づくり）
・ コロナ禍の活動方法
2021/2～2021/4



実践的なオンライン
ツール（Zoom）の使用
法サポート

- ・ コロナ禍でも「つながりを保つ活動」を継続。
- ・ 孤立の防止に繋がる



2. これまでの主な実績

つなぐ

一緒に
取り組む！

協働につながる交流の場づくり
と協働コーディネート



表1-2-a 「つなぐ」協働につながる交流の場づくり 交流会等開催実績

内容		2019年度		2020年度		2021年度	
		回数	参加人数	回数	参加人数	回数	参加人数
1	協働に関する企画	0回 (感染症対策のため延期)	0人	1回 (9/26 テーマ： 災害)	37人	1回 (11/21 市民活動 交流会)	31人
2	カフェ (対話型交流会)	5回	156人	5回	97人	4回	92人
3	ゆるさぼ (気軽にセンターに足を運んでもらうための企画)	17回	127人	—	—	—	—
4	おしゃべり会	—	—	12回	53人	14回	58人
合計		22回	283人	18回	187人	19回	181人

※オンライン開催を含む。

※この他、各講座開催時においても参加者同士の交流の時間をつくるなど、交流の場となるよう工夫した。

減少傾向

→感染症の影響が大きい。感染状況を見ながら、場づくりのあり方を検討。

「つなぐ」：主な協働コーディネート事例①

同じ関心を持つ団体同士が連携し講演会を継続開催



コーディネート
内容：
相談者と共通の
関心を持つ団体
同士を繋げた

誰が？ (関係者)

- 思いを持った個人と、複数の市民活動団体
佐久歴史の道案内人の会・内山キラキラプロ
ジェクト（地域活性化）・
佐久藍染（伝統文化継承）
- 商工会

何をした？

- 商工会の協力を得て、歴史上の人物と地域と
の関わりをテーマに講演会を開催

成果

- 発想の幅が広がり、充実した内容の講演会と
なった
- 各団体が持つ知識や人脈を共有し、活用でき
た



「つなぐ」：主な協働コーディネート事例②

同じ関心を持つ団体同士が連携し講演会を継続開催



コーディネート
内容：
「施設を活用し
て欲しい」とい
う文化財保存団
体と、「やって
みたい」という
団体とを繋げた

誰が？
(関係者)

- ゆるりうんどう会・大沢地区文化財保存会・シニア大学
- 高校生・看護学生ボランティア

何をした？

- 有形文化財施設を舞台に、多世代交流のイベントを実施
- 地域シニアの協力で作成した方言ラジオ体操のお披露目も

成果

- 文化財施設の有効活用
- 市民活動団体同士の協働により、イベント内容の幅が広がった



「つなぐ」：主な協働コーディネート事例③

廃校を活用し、新たなインクルーシブ教育の拠点を



誰が？ (関係者)

- 学校に通う保護者
- 西軽井沢学園（学校法人・サムエル幼稚園@御代田町）
- 青沼区区長（自治会）

コーディネート内容：
廃校利用についての相談を区長に繋がた

何をした？

- 廃校を活用し、発達に凹凸のある子どもが通える新たな私立小学校設立に向けて計画検討中

成果

- 実現に向け、丁寧な関係者の意見調整ができた
- インクルーシブ教育の新たな拠点への期待

「つなぐ」：主な協働コーディネート事例④

行政のまちづくりワークショップに子育て支援団体が参加



誰が？
(関係者)

- 都市計画課（行政）
- 子育て支援団体（青空カフェ、こもれびサロン等）
- 高校生

コーディネート内容：
子育て支援団体に
参加を呼びかけ

何をした？

- 行政主催のまちづくりワークショップに参加

成果

- 多世代の当事者の声が計画に反映される
- 他部署から子育て支援センター設立に向けた意見聴取にも繋がった



「つなぐ」：主な協働コーディネート事例⑤

高校生と市職員とで特定外来種の駆除



コーディネート
内容：
行政からの相談
に対し「企画段
階から参画でき
るように」と
高校に繋げた

誰が？ (関係者)

- 環境政策課（行政）
- 岩村田高校（生徒会を中心とした実行委員会）

何をした？

- 高校生と市職員とで、一緒に特定外来种植物の駆除を実施

成果

- 課題解決に向け連携した取組みのモデルとなった
- 学生が地域課題について学ぶきっかけとなった



2. これまでの主な実績

広める

一緒に
取り組む！

協働・市民活動・センターの
役割についての情報発信



表1-3 「広める」：協働・市民活動・センターの役割についての情報発信

	内容	2019年度	2020年度	2021年度
1	機関紙の発行	4回 (28～31号)	4回 (32～35号)	4回 (36～39号)
2	ホームページ情報発信	141件	151件	186件
3	ホームページアクセス数	17,024件	26,090件	34,351件
4	Facebook情報発信	329件	356件	382件
5	Facebookアクセス数	83,718件	100,000件	90,782件
6	FMさくだいら出演		4回	6回
7	佐久ケーブルテレビ取材		4回	6回
8	佐久市民新聞掲載		3回	3回
9	NHK取材		1回	1回
10	佐久市公式LINE			6回
11	ご近所かわら版掲載			10回
12	週刊さくだいら掲載			1回

- ・紙／デジタル両方の媒体を活用
- ・掲載媒体の種類が増え、より幅広い層に情報を届けられるようになった

3-1. 事業計画



支える

< 各種講座の開催 >

- NPO・市民活動に関する講座
 - 情報発信や広報に関する講座
 - 組織運営に関する講座 など
- ※ニーズにあわせて企画

< 相談や問合せへの対応 >

- NPO法人の設立・運営に関する相談
- 市民活動に関する相談
- 地域課題に関する相談



3-1. 事業計画

つなぐ

＜協働を実感できるイベントや対話の場の提供＞

＜市民や団体、行政など、様々な機関同士のコーディネート＞



3-1. 事業計画

広める

<市民活動の情報収集、提供及び発信>

- ホームページの更新及び維持管理
- 機関紙等の発行
- SNSなど多様な媒体を通じた情報発信
- 報提供コーナーの受付及び管理
- 書籍・資料等の閲覧

<市民活動サポートセンターの機能と役割の発信>

<協働事例についての情報発信>



3-2. センター運営において特に力を入れて取り組む重点事業

1. 「一緒に取り組む」協働の意識を広めることと、それに取り組む担い手（人・団体）の育成
2. 市民や団体、行政など、様々な機関同士のコーディネート「つなぐ」



3-3. 重点事業：具体的な事業案

つなぐ

(1) 「一緒に取り組む」協働の意識を広めることと、それに取り組む担い手（人・団体）の育成

佐久地域で、多様な主体が「一緒に取り組んだ」事例について知り、その意義を実感できるようなイベントや、出会い・対話の場をつくっていきます



3-3. 重点事業：具体的な事業案

(1) 協働の意識を広めることと担い手の育成

つなぐ

(ア) 交流・対話の場「カフェ」

- 幅広く参加者を募集し、現在社会や地域で課題になっているテーマについて対話を行います。
- 外部団体等と協力して企画運営します。
- テーマ例：「障がい」や「LGBTQ」など、タイムリーな話題や、参加者の関心も考慮してテーマを選びます。

(年3回程度)



3-3. 重点事業：具体的な事業案

(1) 協働の意識を広めることと担い手の育成

つなぐ

(イ) 市民活動交流会の開催

- 事例を通じて「一緒に取り組む：協働」について知る機会を作ります。
- 市民活動団体同士が出会い対話する場をつくることで、具体的な連携が生まれることを目指します。
- 市全域の他、市内各地区でも開催し、より生活圏に根付いた地区単位での課題解決に向けたアクションが生まれることを目指します。

(年2回程度)



3-3.重点事業：具体的な事業案

(1) 協働の意識を広めることと担い手の育成



つなぐ

(ウ) 市の出前講座等を活用した勉強会

- 市の出前講座等を利用した勉強会を行うことで、市民と市職員との相互理解を深めます。
- テーマに関心が高い市民と市職員との対話の場を設けることで、市民が市の取組みについて理解を深め、協働に向けた意識が広まることを目指します。

(年2回程度)

3-3.重点事業：具体的な事業案

つなぐ

(2) 市民や団体、行政など、様々な機関同士のコーディネート「つなぐ」

ア 様々な団体同士をつなぐネットワークを構築し、協働が生まれやすい環境づくり

イ 様々な会議体等への参加を通じた連携、協力体制の構築

ウ 課題解決に向けたコーディネート業務



3-3.重点事業：具体的な事業案

(2) 様々な機関同士のコーディネート

つなぐ

(ア) 様々な団体同士をつなぐネットワーク構築

- 関係機関（地域包括センター、社会福祉協議会、長寿社会開発センター、青年会議所、教育機関のボランティアセンター等）とのネットワーク
- コーディネート事例の共有や協働の振り返り（年1回程度）



3-3.重点事業：具体的な事業案

(2) 様々な機関同士のコーディネート

つなぐ

(イ) 様々な会議体等への参加を通じた連携、協力体制の構築

- 県内・市内の他機関と積極的に情報交換
- 長野県や長野県社会福祉協議会等、県域の取組みへの連携
- 地域包括ケア協議会への協力



3-3.重点事業：具体的な事業案

(2) 様々な機関同士のコーディネート



(ウ) 課題解決に向けたコーディネート業務

- 相談や問合せへの解決策を一緒に考え、アドバイス、伴走支援
- 共通の目的の実現のために協働の手法を用いることが効果的であることを確認
- コミュニケーション・事業が円滑に進むよう側面支援を行う



共通の
目的

対等な
関係性

主体性
を尊重

役割
分担

期待値の
すり合わせ

3-3.重点事業：具体的な事業案

広める

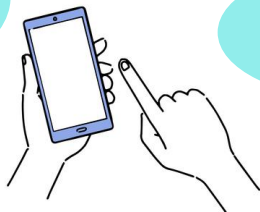
(3) 「一緒に取り組む」協働事例についての情報発信

- 「人」を中心に
- 一緒に取り組むことでどんな変化やメリットがあるかをわかりやすく
- 多様な媒体を活用し、多世代に届くように発信していきます



ホーム
ページ

SNS



YouTube
動画

佐久県新聞



地域
メディア

機関紙



4. 今後5年の長期的な事業展開（2022～2026年度）

協働の
意識を広める

コーディネーターの育成と
関係機関の
ネットワーク
構築

区など地縁団
体との連携



5-1. 今後5年の長期的な事業展開

協働の
意識を
広める

市民・市民活動団体・行政へのはたらきかけ

1～2年目

- ・ さくさぽの役割・機能について、認知度の向上を図ります。
- ・ 関心が高い市民・市民活動団体と行政との出会いや対話の場を積極的につくりします。

3～5年目

市民・市民活動団体・行政が「一緒に取り組む」協働事例の実現に向けたサポートに力を入れます。

5年後に目指す状態

- ・ 市民・市民活動団体、市職員において、「一緒に取り組む」協働の必要性について理解が深まっていること
 - ・ 異なる立場の人と対等な目線で、未来志向の対話ができるオープンマインドな市民・市職員が増えていること
- を、目指します。

5-1. 5年の長期的な事業展開に関する考え方

コーディネーター
の育成と関係機関
のネットワーク構築

関係機関へのはたらきかけ

1～2年目

各関係機関同士が出会う場を設け、お互いの役割・活動内容について理解し、コーディネーター同士の顔が見える関係性をつくりま

3～5年目

- ・ 具体的な案件についてお互いに相談しあえる関係性の深まりを目指します。
- ・ 共通の目的のもとに、連携や協働の取組みが生まれることを目指します。

5年後に目指す状態

佐久地域において、多様な立場同士の連携を進めるコーディネーター同士でお互いの顔が見えており、相談しあえる関係性が構築されることを目指します。

5-1. 5年の長期的な事業展開に関する考え方

区など地縁
団体との連
携

区など地縁団体へのはたらきかけ

1～2年目

地域に出向き、対話型ワークショップ等を開催し、地域とのつながりをつくりま
す。
各区で抱えている困りごと
やその解消事例などについ
て、地域で共有する場をつ
くりま
す。

3～5年目

全世代の住民のニーズ把握、
未来の地域像や共通の課題
について意見交換する「円
卓会議」など、住民主導に
よる未来志向で具体的な課
題解決に向けた取組みの支
援を行います。

5年後に目指す状態

- ・これまで以上に多様な世代が地域づくりに参画できていること
- ・地域の課題について自主的に取り組む市民が増えていること
- ・地域づくりに取り組む人同士の学び合いの場が継続的にあることを、目指します。



【ビジョン】

出会って、学んで、コラボして、参加の力
で佐久の未来を創ろう！

ひとりひとりの参加の力を生かして、
より暮らしやすい、より魅力的なまちになるよう、
取り組んでいきます

佐久市市民活動サポートセンター